



米子市福市考古資料館通信

第6号

2022年9月



企画展「発掘された土の城」－西伯耆の中世城館跡－

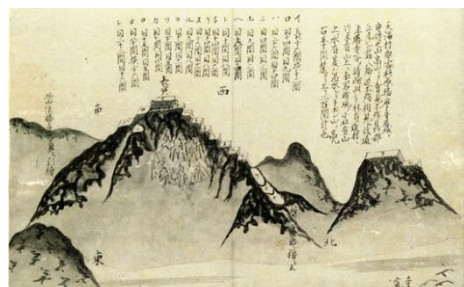
福市考古資料館では、「発掘された土の城」をテーマとして企画展2を開催しています。ぜひご観覧ください。

企画展2「発掘された土の城」－西伯耆の中世城館跡－

- 展示内容 西伯耆地方で発掘された戦国時代の城の姿を出土品や、遺構などで紹介しています。戦国時代には「尼子氏」と「毛利氏」が、中国地方の覇権を争っていました。西伯耆地方では、国人と呼ばれる小領主の武士たちが、城を造り領地を守っていました。中世の城は石垣や天守閣などはなく、土塁や空堀でまもりを固めており、「土の城」と呼ばれています。西伯耆の戦国時代の代表的な城は、尾高城、石井要害、手間要害、江美城などですが、これらの城は、城の一部が発掘調査されていて、当時の様子が少しわかっています。展示では発掘された遺構や出土品から戦国時代の城を解説しています。



尾高城遠望と絵図



手間要害遠望と

因伯古城跡図志 鳥取県博蔵

- 開催日時 9月7日(水)～11月28日(月)
- 観覧料 無料
- 開館時間 午前9時30分～午後5時
- 休館日 毎週火曜日 9月21日(水) 26日(月) 10月12日(水)
11月4日(金) 11月24日(木)

展示品紹介 弥生時代の祭具（目久美遺跡ほか）

展示室では、市内の遺跡から出土したお祭りなどで使用したと考えられる土製品を展示しています。

目久美遺跡からは、卵型の土器に穴がけられた土笛が出土しており、お祭りの際に吹いていたと考えられています。土笛の祖形は中国の陶埙といわれる笛で、日本海岸沿いの弥生時代前期の遺跡から点々と見つかり、稲作と共に伝わったと考えられています。

また、分銅の形をした分銅形土製品は、粘土板で魔除けの祈りを願ったと考えられています。

親子の鹿の絵をへうで書いた土器片も見つかります。鹿は農作の神の使いと考えられ、土器に豊穰の祈りを描いたものと考えられます。

鳥形や分銅形土器や鳥形木製品もあり、2千年前の弥生人たちが、土器の形に豊かな収穫や祈りを込めたことを物語っています。



上 土笛 下 鹿の絵画土器

福市遺跡の四季

福市遺跡は、古墳時代の人たちの村が丘の上で営まれ、谷間では水田がつけられていたと考えられています。今は史跡公園として整備され、丘の斜面に桜やツツジが植えられています。

谷間は埋められて多目的広場として活用されています。谷奥には溜池があったので、庭園の池として東屋や飛び石が作られ、水蓮が植えられています。夏の時期になると池いっぱいに水蓮の花が咲き、この季節を彩ります。



福市史跡公園の池と水蓮

発行者 米子市福市考古資料館（指定管理者 一財・米子市文化財団）
住所 〒683-0011 米子市福市461-20番地
電話・fax 0859-26-3784（同番号）
休館日 火曜日・祝祭日の翌日・年末年始（12/29～1/3）